

平成28年度 第1回 尼崎市社会教育委員会議について

標題の会議が、次のとおり行われましたので報告します。

1 と き

平成28年5月31日(火) 午前10時から12時まで

2 ところ

尼崎市庁舎北館3階教育委員会室

3 出欠状況(順不同)

- (1) 出席委員 9名
- (2) 欠席委員 3名
- (3) 出席職員 教育長以下10名

4 会議成立の報告

司会者から定数12名中9名が出席し、会議が成立している旨の報告があった。

5 会議内容

議事進行に先立ち、平成28年度第1回目の会議のため教育長から挨拶があり、昨年度、社会教育委員から新規事業に繋がる貴重な意見をいただき、今年度の事業に反映されたことへのお礼と、今年は市制100周年を迎え、市民の期待と信頼に応えるため、これまで積み上げてきた取組みに自信をもって、『さらなる高み』を目指した教育を推進していきたい。

また、これからの社会教育において、学びのすそ野を如何に広げていくか、自らの学習を地域課題にどのように結び付けていくかという二つの課題があることを踏まえて、検討していただきたいとの話しがあった。続いて、委員、出席職員の紹介があり、その後議事に入った。

協議事項

議題1 平成28年度社会教育関係主要事業について

社会教育課長から、平成25年度に策定した尼崎市総合計画における社会教育部関連施策「02生涯学習(生涯を通して学び、スポーツに親しめるまち)」と「17地域の歴史(歴史遺産を守り活かすまち)」について説明を行った。

続いて、今年度の社会教育部に係る新規・拡充事業について、及び主要な事業を中心について各所属長から説明を行った。

主な新規及び拡充事業

- ・ **学校支援活動コーディネートモデル事業(拡充)**

地域の豊かな社会資源を活用し、子どもたちが地域社会で体験的に学ぶ取組を行うとともに、学校の求めと地域の力をマッチングして、より効果的な学校支援が行えるよう調整するコーディネーターをモデル校に配置する。

- ・ **親子ボランティア体験学習事業(新規)**

高齢者疑似体験や高齢者に対する接し方等について学ぶとともに、特別養護老人ホームにおいて、高齢者とのコミュニケーション(手遊び、歌等)、利用者への援助などのボランティア活動を行う。

- ・ **あまらぶ歴史体験学習事業(新規)**

小学校3年生以上の児童を対象として、夏休みに、文化財収蔵庫及び田能資料館をめぐるバスツアーを行う。各施設においては、尼崎の歴史を学ぶとともに、糸つむぎ体験などに触れたり、勾玉づくりを体験したりする。また、小学生の親子を対象とした体験学習会を実施し、文化財収蔵庫や田能資料館、大庄公民館において、それぞれの施設を活かした体験学習を行う。

・ **生涯スポーツ・レクリエーション事業**

(新・がんばりカード(1日1回運動)事業)(拡充)

がんばりカード(1日1回運動)の取組回数に応じて、市が絵本や紙芝居を購入し、図書館等に配架する。また、市内で行われている運動やスポーツの実施状況などを周知するため、「スポーツ活動マップ」を発行する。

・ **生き方探求キャリア教育支援事業(拡充)**

小学校高学年を対象に、年複数回、地域にゆかりのある様々な職業人による講義を実施する。

・ **立花(りっぱな)子育てひろげようサミット事業(拡充)**

年3回程度、立花公民館で「サミット」を開催し、各子育て団体が抱える課題などについて自由に意見交換を行い、相互協力でその解決策に向けた取組を行う。

・ **学びの楽しさを学ぶワンコイン講座事業(拡充)**

学びの楽しさを体感し、その学びの成果を将来的に市民や地域に循環させることのできるような内容の講座を実施する。

・ **田能遺跡サポーター養成事業(新規)**

「田能遺跡サポーター」を養成し、復元住居の修復及び事業のサポートを行うなど協働の取組を推進するため、田能遺跡及び田能資料館について学ぶ「講座」や、火おこし、古代米づくり、茅葺き替え等を行う「実技研修」を実施する。

【委員からの意見等】

- ・ 今年度、維持管理をしている地域学習館の数はどうなっているのか。
- ・ 旧城北公民館が芸術大学生の作品展示場所として活用されている記事を新聞で見たが、所管を替えて(都市魅力創造発信課等)活用を図ることも良いのではないか。
- ・ 尼崎市の特徴として公民館・図書館等の社会教育施設が直営で行われていることだと思うが、高齢者の学習の機会、青年の就労支援、女性支援、貧困問題等について、他市との協働、大学や他の部局との連携等幅広い取り組みが考えられると思うがそのように取り組んでいるのか。
- ・ 高齢者と呼ばれる人の8割以上が元気な健康な方である。そういった方が地域の応援隊となれるよう、学習の主人公となり主体となり仕掛けとなる循環型のしくみを考えていかなければいけない。
- ・ 市民大学とセレクト講座の関係が、「市報あまがさき」を見ただけでは分かり難かった。地域学習館が閉館になったことで、これまで利用(学習)してきた高齢者がこれからどこで、どうしたらよいのか困っている。
- ・ 学びの場が、社会教育施設以外に広がっている現状がある。とても良いことだと思うが市として把握する必要があるのではないか。社会教育課が発行している「あまナビ」「あまナビサポートデスク」が市内の学びを市民に分かり易く発信をしているのかと

思うが、どこかで集約することも必要ではないか。

- ・ 「学校プール開放事業」について、小学校 7 校のみで実施されているが、全体から見ると少なくないか。
- ・ 学校プール開放については、地域住民の騒音クレームや事故の問題、学校開放とスポーツクラブ 21 の関係など難しい課題があると感じる。
- ・ 「地域お出かけ事業」とあるが、婦人会等と連携して行う方法もあるのではないか。
- ・ 図書館の事業の「出張講座」9 幼稚園とあるが、対象はどのような幼稚園なのか。今後、認定「こども園」もできてくるので指定しなくても良いのではないか。
- ・ 指定管理となっている施設（北図書館・地区体育館等）の状況が予算額だけなので、事業等の様子が見えない。今後、指定管理施設についても事業計画等の報告をしていただければよいように検討していただきたい。
- ・ 「歴史遺産を活かしたまちの魅力発見事業」で、富松城跡の土地の取得が 700 万程度になっているがどうしてか。
- ・ 色々と難しいこともあるかと思うが、スポーツの全国大会の誘致の種目が偏っているように思うがどうしてなのか。
- ・ スポーツ大会の誘致については、多くの市民が関わっている種目という視点も大切ではないか。
- ・ 親子ボランティア体験学習事業の対象とするのはどの範囲なのか。
- ・ 昨年度から実施している土曜学習支援モデル事業について、どのような活動をしているのか。

【事務局からの説明等】

- ・ 地域学習館の数については、平成 27 年度 12 館あったが 4 館閉館し、平成 28 年度は 8 館の維持・管理を地域団体等が行っている。
(8 館 蓬川、杭瀬、大庄南、稲葉荘、立花西、塚口南、園和北、小園地域学習館)
- ・ 公民館では、「社会教育・地域力創生事業」の中で、地域・現在学講座として、社会問題化した課題などに焦点を当てた講座を展開している。高齢者問題・子育て・防災・貧困などをテーマとして行っており、講師については外部講師が多いが、今後、他部局との連携も図っていきたいと考える。
また、「生涯学習推進事業」の市民大学で、各公民館で年間 12・13 回程度講座を実施している。
- ・ 地域の学習グループの方に声を掛け、公民館で学んだことを、子どもや親子に教えるという、夏休みオープンスクールを昨年度から行っており、高齢者の方がやりがいを感じられるしかけを考えているが、今後は、健康福祉部局との連携も考えてみたい。
- ・ 市民協働局で「まち大学あまがさき」という取り組みを始めている。尼崎市全体をキャンパスとして取り組むもので、また、学びの情報をデータベース化して、市民に情報提供をしようとする取組も行っていく。
- ・ 学校プール開放事業は、市民プールの廃止に伴って実施しているものであるが、当初は各地区 1 校実施の方向で始めたものである。当初はスポーツ振興事業団に委託を行っていたが、プールの監視は警備業にあたり警備事業法の有資格事業者でなければならないことから、一般公募を行ったが難しい状況である。平成 27 年度より、地域の

方に運営していただくことで委託ではなく支援制度（補助金支給）での対応に転換した。

- ・ 委託事業として実施していたプール開放事業においては、プールが改築（循環機がある）され、更衣室があるところから、各地区1校選んで実施していた。支援制度へ転換した後も、これまでの実績校数確保を目標として取り組んでいるところである。
- ・ 図書館の「出張講座」は、公立幼稚園13園の内9園を対象として行っている。内容は、ボランティアグループ「ひまわり」の方が読み聞かせを行うもので、保険料程度を予算化している。園から要望があれば図書館がボランティアグループとの調整を行っている。
- ・ 現在、国有地である富松城跡の取得については、市の土地との交換で行うが、若干の差額が想定されるためそれを予算計上している。
- ・ 全国大会誘致の選考については、教育委員会とスポーツ振興事業団・体育協会の3者で、3年後の誘致について検討を行っている。多くの種目を誘致したいという認識はあるので、様々な競技に注目をしていきたい。
- ・ 親子ボランティア体験学習事業については、小学校高学年（4～6年生）の親子を対象として行う。
- ・ 土曜学習支援モデル事業は、地域学校協働本部に繋がる活動として、地域の方の持てる力を発揮していただき、体験学習（危険予知調理・絵手紙）や地域の歴史学習（鎧づくり・歴史講座）など、いろいろな団体の協力を得て行っている。

議題2 平成28年度社会教育団体への補助金について

社会教育課長から、資料に沿って説明を行い、補助金については、尼崎市全体の方針で一律3%カットとなっていることを伝えた。

議題3 平成27年度教育委員会議における協議内容について

社会教育課長から、「平成27年度社会教育委員会議の協議経過とまとめ」を作成し、教育委員会で報告したことを伝えた。

議題4 平成28年度社会教育委員会議における協議事項について

社会教育課長から、事業説明でお伝えした尼崎市総合計画・施策に関する内容等を含め、今年度の協議内容について、ご意見をいただきたい旨説明を行った。

【議長から】

委員のみなさんから、市民・事業者の視点から活発なご意見をいただいた。今後、どのような事業の取り組みができるのか、総合計画の方針に基づき、より良い事業について委員のみなさんと協議を深めていきたい。

以 上